

ありえない日本人

2023年3月22日平日の午前中である。全く日本的である私の会社は在宅などすることもなく、殆どの社員が出勤し仕事中的はず。にもかかわらず、どうなった、どうなった、飛び交う有り様。そう WBC 決勝、大谷翔平がマイク・トラウトを三振に切って取り日本が3度目の WBC 制覇を成し遂げた日である。

話は変わって少々昔、1995年ロサンゼルス・ドジャースにてデビューした野茂英雄はトルネード投法を引っ提げて、画面越しでもわかるほどの落差のフォークボールでバツバツと三振の山を築いていった。昭和のごく平凡な家庭に生まれた私は当たり前のように野球少年となり、田無という現在は無い市の小学生選抜にバッティングで辛うじて選ばれ中学では4番打者、先輩や友達の兄は甲子園に行ったりとそこそこ腕前に自信がある人種の中で育った。その中ではジャイアンツやライオンズ（西武線沿線なので）が憧れの対象であり現実の世界であった。野茂英雄が近鉄と良くない状況であることの報道をうっすらと記憶している。凄いピッチャーではあったが俺が町の球団でもなく、パリーグのピッチャーがしょうがなくアメリカに行ったのかな、程度の認識だった。それがもう、ありえない！

ちなみに WBC 時、紹介されたのでご存じの方も多と思うが野茂のドジャース時代の女房役（キャッチャー）は今回のイタリア代表監督のマイク・ピアザで、その日本での人気ぶりは今回の侍ジャパンのヌートバーに匹敵していた。来日時野茂と TV に出演した際のピアザのお尻の大きさにやっぱり野茂以外の日本人では勝てないよな、と思ったことを記憶している。

私が小さい頃はまだまだ昭和の雰囲気ガムンムンで西武線田無駅の南口にある「だるま」という焼き鳥屋に父親によく連れていかれた（お酒はもちろん飲んでません）。ビールケースを裏返しにして座布団載せた椅子に客が座るような店だったが手羽先が本当に美味しく、珍しく豚足も出す店で酢味噌を付けて子供なのに食べていた。余談になるが周りの大人たちはホッピーなど飲んでおらずビールの記憶しかない。レモンサワーはあったかな？そしてそこでは当然、野球の話が飛び交っているわけで4番と言ったら、山本浩二、田淵幸一、若大将 原辰徳、そして引退していたが世界の王貞治。王さんの下にベブルース、ハンクアーロンの記録があると皆誇っていたが、わかってましたよ、幼心に。アメリカでは尊敬されつつも参考記録、心無い人たちには相手にもされてないって。ところが2003年ピンストライプのユニフォームを来た日本人が、4番として打席に立つ。松井秀喜である。え、日本人がニューヨーク・ヤンキースの4番を打つ？興奮を通り越して寒気までする中で何故か王さんも長嶋さんも救われたような気持ちになった。そして2009年ワールドシリーズを制覇し MVP。本当にありえへん！

エコノミックアニマルの呼称も泡と消え、先の大戦でも負け戦、フビライ・ハンにラッキーな防衛勝ちがあったものの卑弥呼の時よりやっぱり大国には敵わないと根っこではあきらめている民族__日本人とまで言うのはネガティブすぎるのだろうか。

一方で竹原慎二、村田諒太がミドル級の世界チャンピオンとなり、錦織圭はセンターコートで跳躍、マスターズチャンピオンに松山英樹がなり、イチローのフィールドでの佇まいは God Save the King! __世界のどこの人たちですか？もう、ありえない、ありえない。

時は流れ、ここは有楽町の小樽という居酒屋。令和5年だというのに煙草が吸えホッピーを飲みながら昭和気分（あれ？）になっている。画面に野球のダイジェストが写りフォークはスプリット、スライダーはスパーと名前を変えたが、メジャーリーガーの丸太のような腕は変わらない。エンゼルススタジアムでは毎日ボックスに入るかマウンドに上がるか、している彼は今日も上々のようだ。沢村賞、間違えたサイヤング賞獲得は、そう彼なら日本人なら、もちろんあり得るだろう。

（理事 田中富智夫）